

平成24年度 7月 経営の重点

【通うだけで楽しくてしかたがない、通うだけで助け合う力が育つ「伝説の学校」をつくろう！】

- 学校教育目標・・・「自主貢献」－自主的に行動し、助け合える生徒の育成－
- 目指す生徒像・・・的確に判断できる生徒、自主的に行動できる生徒、助け合いができる生徒
- 目指す教師像・・・一番好きになる教師、気持ちがわかる教師、学び続ける教師
- 3つの重点目標・・・プライド（12の実践）、学力向上（校内研究）、郷土愛（家庭・地域との連携）

6月の経営の重点は「評価&具体的改善」でした。

- 学校・学年・学級・部活・委員会・職員室・授業の良さや課題は何ですか？
- 自分の何が変わりましたか？ 自分のどこを変えましたか？
- 集団に所属する生徒の姿は良くなりましたか？

「評価」とは、対象の良さと課題を明確にし、認める（事実を見て、心に留め、一步踏み出す勇気を持つ）ことです。良さをどう伸ばすか、課題をどう改善するか、みんなで真剣に話し合い、やるべきことを具体化し、行動変容させることです。評価をしない、変容のための一步を踏み出さない、何もしない、これが最悪です！「失敗は成功の途中」です。失敗を恐れず改善のための一步を！

（7月の重点）「達成感」

「評価し、改善のための一步を踏み出した」私たちが今月すべきことは、**やり抜いたという「達成感」**を生徒に持たせることです。例えば、「夏の葛南・県大会にどのように臨ませるのか。帰りの会を時間内でキッチリ終了させ、すぐに放課後の活動場所へ移動し、一生懸命な姿を後輩に見せる。先輩の一生懸命な姿を後輩が一生懸命支える。学校中に一生懸命が溢れるほど目に見えるように活動させる。どの部も元気な挨拶で始める。ダメなら、隣の部活動顧問がやり直しさせる。放課後の教室を見回る先生は、学年全部を見て回る。職員も力を合わせて生徒の活動を支える。そして、大会やコンクールに一生懸命取り組み、手の空いている先生や仲間が一生懸命声をからして応援する。」とこのように、みんなでひとつの目標に向けてやり抜いた時、達成感が共有されるのです。1学期の終わりをこのような「達成感」で表現できたら最高です！

学習も同様です。定期テストの点数がだめなら何度でも合格するまで同じ問題にチャレンジさせればよいのです。全員ができるまで何度でも取り組むチャンスを与えるのです。でも工夫しなければうまくはきません。時間は無限にあるわけではないのです。制約が出てきます。そして、大切になるのがバランス感覚です。部活を犠牲にして再テストに打ち込むのもいかなものかと思います。かといって部活だけに専念し、他にやるべきことはほったらかし！というのもどうかと思います。

こういうときこそ「考えてみる」のです。Win-Winの関係になるように優先順位をつけて取り組めるように、しっかり話し合い、わかり合った上で両方取り組ませるのです。うまくいかなかったら、またみんなで知恵を出し合って、別な取り組みを展開すればよいのです。できるまで工夫するのです。

「達成感」は、一步踏み出さなければ、何かやらなければ絶対に得られません。何をなすべきか本気で考え、取り組まねばならないのです。やるべきことは山ほどあります！

学年・学級・委員会・部活、そして授業で、達成すべきゴールを具体的にイメージすべきです！